

# 平成18年度 病害虫発生予察注意報 第3号

平成18年7月25日  
福島県病害虫防除所

7月中下旬の巡回調査において、葉いもちの発生ほ場率が県内全域で前年よりも高く、その発生程度も高いほ場が見られている。また、7月に入ってから県内各地で葉いもちの感染に好適な条件が頻繁に出現しており、今後も降雨が続くと予想されることから、イネ上位葉において葉いもちが多発するおそれがある。

イネ上位葉における葉いもちの多発は、穂いもちの多発生につながる危険性が高いことから、穂いもちの徹底した防除を強く喚起するため注意報を発表する。

## 病害虫名：イネいもち病（穂いもち）

1 発生地域：県下全域

2 発生時期：平年並

3 発生量：**県中・県南** 多  
**県北・会津・浜通り** やや多

### 4 注意報発令の根拠

- ① 穂いもちの発生時期は、イネの出穂期と同様平年並と予想される。
- ② 7月中下旬に調査した結果、葉いもち発生ほ場率が県内全域で高く、とくに県南地方で高かった（+）（表1）。
- ③ 各地で発生程度の高いほ場が散見され、特に県中・県南地方で多発ほ場が目立った。ただし、地域やほ場によって発生程度に差が大きい。
- ④ BLASTAM（アメダスデータを用いた葉いもち発生予測システム）によると、7月以降県内各地で感染に好適な条件が頻繁に出現している（+）（表2）。
- ⑤ BLASTL（葉いもち病勢進展予測シミュレーション）によると、葉いもちは少発年の気象条件であっても多発生になると予測される（+）（図1）。
- ⑥ 週間天候予報では、今後も降雨が続くと予想されている（+）。

### 5 防除上注意すべき事項

#### 1) 上位葉で葉いもち発生が認められたほ場における防除対策

- ① 上位葉に葉いもちの発生が認められたほ場では、穂いもちに移行する恐れが高いため早急に散布剤（液剤、粉剤等）による防除を実施する（表3）。

#### 2) 今後の防除対策

- ① 穂いもちを対象に水面施用剤を施用する場合は、適期に湛水状態で散布し、4日間程度止水する（表4）。
- ② 穂いもち防除で水面施用剤を使用しない場合は、散布剤（液剤、粉剤等）を穂ばらみ末期及び穂揃い期の2回防除を実施する。また、穂いもちの発生が見られたら、穂揃い期防除の7日後にも防除を実施する（表3）。
- ③ 箱施薬剤を施用したほ場でも、穂いもち防除を適期に実施する。
- ④ 化学農薬の低減防除体系を実施している場合には、葉いもちの発生に特に注意を払い、発生が認められたら可能な範囲で防除を行う。

#### 3) 薬剤抵抗性対策

- ① 育苗箱施用剤でウィン剤またはデラウス剤を使用した場合は、本田でデラウス剤及びアチーブ剤を使用しない。
- ② 同一系統の薬剤は連用しない。

表1 葉いもちの発生ほ場率（7月20～21日）（％）

	本年 (18年)	前年 (17年)	穂いもち多発年 (15年)
県北	31.9	11.5	1.9
県中	52.1	14.9	26.4
県南	75.2	34.9	6.0
会津	18.8	6.2	2.6
浜通り	50.0	31.1	1.5

注)  
7月中下旬調査では、畦畔から100株について病斑を調査し、発生ほ場とした。  
7月上旬調査では、本田内約1300株について病斑を調査し、発生ほ場とした。

注) 前年調査（7/25～28）、15年調査（7/18～24）

表2 BLASTAM（アメダスデータを用いた葉いもち発生予測システム）による感染好適条件出現状況

	中通り										会津						浜通り									
	茂庭	梁川	福島	二本松	船引	郡山	湯本	小野	石川	白河	東白川	喜多方	西会津	猪苗代	若松	金山	只見	南郷	田島	相馬	飯館	浪江	川内	広野	上遠野	小名浜
7/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
7/2	-	-	●	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	●	●	-	-	-	-	-	
7/3	-	-	-	-	●	-	●	●	●	-	-	-	-	-	●	△	-	●	-	-	●	●	●	-	●	
7/4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
7/5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
7/6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	
7/7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
7/8	△	-	●	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	
7/9	-	-	-	-	-	-	○	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	△	●	●	
7/10	●	●	●	●	●	●	△	●	●	●	●	●	-	●	●	●	●	-	●	○	○	●	○	●	●	
7/11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	
7/12	-	●	-	-	●	●	●	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-	●	●	●	●	
7/13	-	●	●	-	●	-	●	-	●	-	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	●	●	-	-	-	
7/14	-	-	-	●	-	●	-	●	●	-	-	-	-	●	-	-	●	-	●	●	●	●	●	●	●	
7/15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	
7/16	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
7/17	●	○	○	●	●	●	●	●	●	-	-	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	△	○	-	
7/18	●	●	●	-	-	●	●	-	●	●	●	-	●	-	-	△	●	●	●	●	-	-	●	●	●	
7/19	△	-	●	-	-	-	-	△	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	
7/20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	
7/21	○	△	-	●	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	△	-	●	●	-	
7/22	○	△	-	○	△	△	△	-	-	○	-	●	●	○	-	○	○	○	-	-	△	○	-	○	△	●
7/23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

●：感染好適条件    ○：準感染好適条件    △：感染可能条件

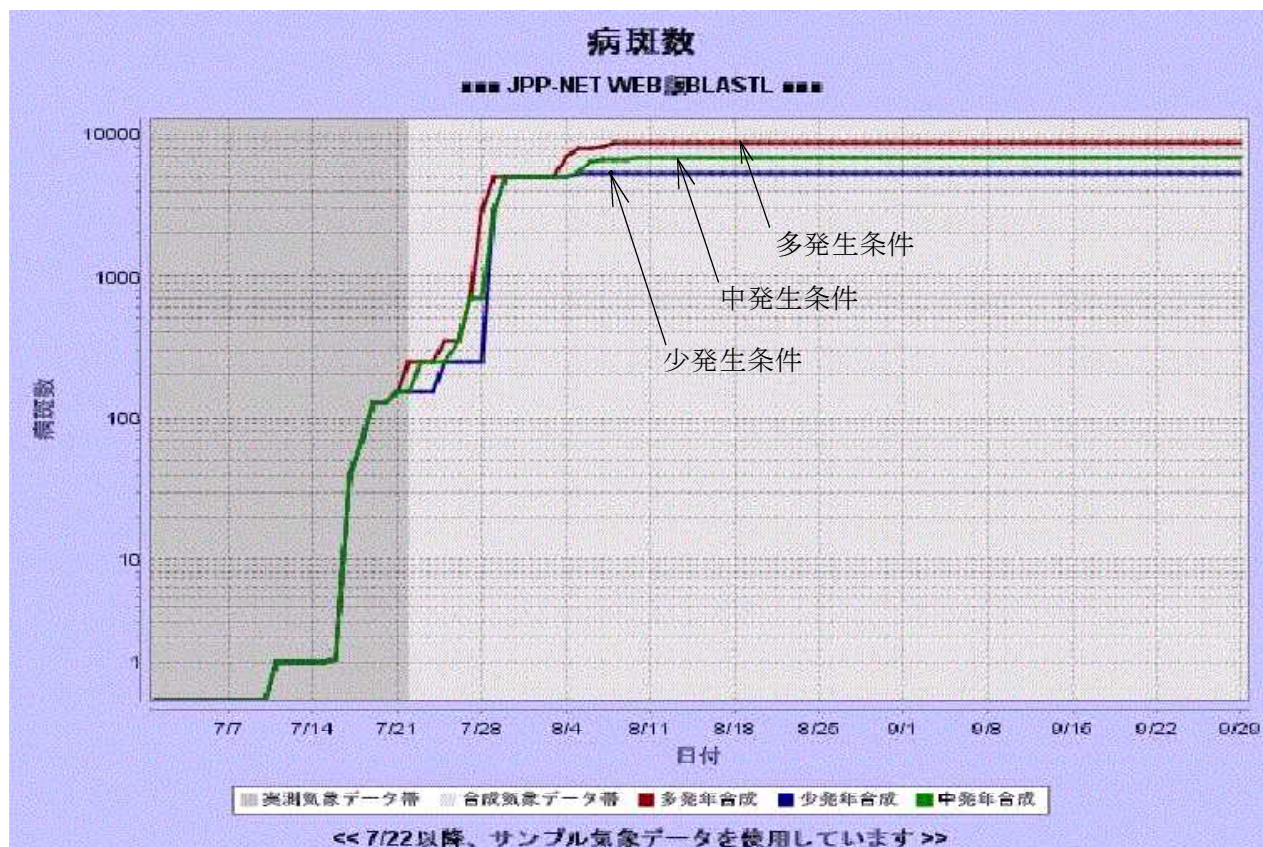


図1 BLASTL（葉いもち病勢進展予測シミュレーション）による演算結果（郡山）  
 （演算条件：7月1日に次葉の第9葉に葉いもちが初発生した場合）

表3 いもち病の散布剤による防除

薬剤名	濃度又は10a当たり使用量	使用時期	使用回数
アチーブ粉剤DL	3～4 kg	1 4 日前まで	3 回以内
カスミン粉剤DL	3～4 kg	1 4 "	5 "
カスラブサイド粉剤DL	3～4 kg	1 4 "	5 " 注1
キタジンP粉剤30DL	3～4 kg	2 1 "	3 "
デラウス粉剤DL	3～4 kg	1 4 "	2 "
ノンプラス粉剤DL	3～4 kg	2 1 "	2 "
ヒノザン粉剤25DL	3～4 kg	2 1 "	3 "
ビーム粉剤DL	3～4 kg	7 "	4 " 注2
ブラシン粉剤DL	3～4 kg	2 1 "	2 "
ラブサイド粉剤DL	3～4 kg	7 "	6 " 注3
アミスターエイト	1,000～1,500倍	1 4 日前まで	3 回以内
カスミン液剤	1,000倍	1 4 "	5 "
カスラブサイド水和剤	1,000倍	1 4 "	5 " 注1
キタジンP乳剤	800～1,200倍	2 1 "	3 "
デラウスフロアブル	1,000～1,500倍	1 4 "	2 "
ノンプラスフロアブル	1,000倍	2 1 "	2 "
ヒノザン乳剤30	1,000倍	2 1 "	3 "
ビームゾル	1,000倍	7 "	4 " 注2
フジワン乳剤	1,000倍	1 4 "	3 "
ブラシンフロアブル	1,000倍	2 1 "	2 "
ブラシン水和剤	1,000倍	3 0 "	2 "
ラブサイドフロアブル	1,000～1,500倍	7 "	6 " 注3

注) 注1 5回以内（但し、穂ばらみ期以降は4回以内）

注2 4回以内（但し、本田期は3回以内）

注3 6回以内（穂ばらみ期以降は4回以内）

注4 アンダーラインは登録内容の範囲内で限定している

表4 穂いもちの水面施用剤による防除

薬剤名	10a当たり使用量	使用時期（収穫前日数） <sup>注1</sup>	使用回数
フジワン粒剤	3～5kg	出穂30～10日前	3回以内
イモチミン粒剤	3kg	出穂28～7日前（収穫45日前）	1 "
フジトップ粒剤	3～4kg	出穂25～15日前	2 "
フジワン1キロ粒剤	1～1.5kg	出穂25～15日前（収穫45日前）	3 "
アチーブ粒剤7	3～4kg	出穂25～10日前（収穫21日前）	3 "
イモチエース粒剤	3kg	出穂20～10日前（収穫35日前）	1 "
アチーブ1キロ粒剤24	0.75～1kg	出穂15～10日前（収穫21日前）	3 "
コラトップ粒剤5	3～4kg	出穂15～10日前	2 "
コラトップ1キロ粒剤12	1～1.5kg	出穂15～10日前	2 "
コラトップジャンボ	パック10～13個 (500～650g)	出穂15～10日前	2 "
キタジンP粒剤	3～5kg	出穂15～10日前	2 "

注) 注1 使用時期は、効果的な施用時期を示しており、登録内容の範囲内で限定している

注2 散布剤及び水面施用剤を使用する場合は、以前に用いた薬剤と合わせて有効成分の総使用回数に注意する

イソプロチオラン	3回	(フジワン剤、フジトップ粒剤)
カスガマイシン	5回	(カスミン剤、カスラブサイド剤)
トリシクラゾール	3回	(ビーム剤、ノンブラス剤)
ピロキロン	2回	(コラトップ剤、フジトップ粒剤)
フェリムゾン	2回	(ノンブラス剤、ブラシン剤)
フサライド	6回以内	(穂ばらみ期以降は4回以内) (ラブサイド剤、カスラブサイド剤、ブラシン剤)
メトミノストロビン	1回	(オリブライト剤、イモチエース粒剤、イモチミン粒剤)

他の病害虫の発生状況や防除対策は、福島県病害虫防除所ホームページ<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>をご覧ください。お問い合わせはTEL024-958-1709、FAX024-958-1727またはe-mail:yosatsu@pref.fukushima.jpへお願いします。

18病防 第45号  
平成18年7月25日

各関係機関・団体の長 様

福島県病虫害防除所長  
(公 印 省 略)

平成18年度病虫害発生予察注意報第3号について (送付)

このことについて別紙のとおり発表しましたので、防除指導及び周知についてよろしくお願ひします。

(事務担当 発生予察グループ 電話024-958-1709)